



2011.March



今号の内容

田中校長の
自己開示
私の大学時代の
サークル遍歴

おめでとう!
教員就職率
全国1位達成

国際交流
第4回
日中教師教育
学術研究集会

イーストカロライナ大学留学報告
外国人留学生見学旅行に
参加して

学園を築立つ前に

「学びの場に寄せて」
「ありがとう」
「好きこそ、鳴教」

健康手帳
先人の知恵
に学ぶ**健康法**
ほか

学園だより

G A K U E N D A Y O R I

◆◆◆ 学園だより No.63 ◆◆◆

CONTENTS

2011.3

自己開示- 私の大学時代のサークル遍歴	学 長 田中 雄三	1
おめでとう- 教員就職率全国1位達成	副学長 大石 雅章	2
退職にあたって		3
25年間をふり返ると・・・	西村 宏		
ラオスへの教育協力の思い出	齋藤 昇		
教員生活の反省にかえて	坂本 和丈		
学園を巣立つ前に		6
ありがとう！	学校教育学部	幼児教育専修	
人	学校教育学部	技術科教育コース	
好きです，鳴教	学校教育研究科	楠井 愛美	
学びの場に寄せて	学校教育研究科	越智 達哉	
本当にありがとうございます	学校教育研究科	CHAMLEUNSAB Mayuly	
～鳴門での最高の2年間～	学校教育研究科	山本 賢	
課外活動～サークル紹介～		10
手話サークルぱぴぷぺぼ	池田 達哉		
女子ハンドボール部	安岐美佐子		
課外活動N e w s		11
学生会・院生会だより		12
先輩お世話になりました	学生会副会長	吉浦 早紀	
今年一年を振り返って	院生会会長	番場 友基	
学生表彰について		13
こんにちはは附属です		14
想いを実感できる揮毫式	附属中学校	紅露 瑞代	
2年連続！！徳島県手工芸展入賞	附属特別支援学校	郡 俊恵	
子どもたちや周りの人々に支えられて	附属幼稚園	杉山 健人	
学校保健委員会	附属小学校	滝川つぼみ	
国際交流		16
第4回日中教師教育学術研究集会	理事・副学長	山下 一夫	
留学体験記 -アメリカ イーストカロライナ大学留学報告-		中住 幸治	
外国人留学生見学旅行（1泊2日）に参加して		于 瀛 勃	
図書館だより		20
健康手帳		21
先人の知恵に学ぶ健康法	心身健康センター所長	廣瀬 政雄	
なるきょう通信 -大学からのお知らせ-		22
ゴミの分別について			
飲酒について			
緊急地震速報について（地震に備えて-Part4）			
行事予定		24
編集後記		24
ALBUM		25



◆ 学長 田中雄三



1960年代から70年代にかけて、大学の文化系サークルといえば、美術部、マンドリンクラブ(略してマンクラ)、文芸部が御三家であった。私は、医学進学課程の2年間に美術部に籍を置き、少なくとも時間を部室で過ごした。美術専攻の部員と

あれこれ美術談義に花を咲かせるのが楽しみであった。あるとき、一人の女子学生が佐伯祐三の画集を見ながら、「私は佐伯の絵を見ると涙が出るのよ」といったのが妙に心にひっかかった。私自身は、夭折した佐伯祐三の絵はユトリロに似たところがあったので、好もしく思っていたが、涙がでるといほどではない。というよりも、そもそも絵画を見て感動のあまり落泪したことはなかったので、この女子学生の言葉には新鮮な驚きを感じた。美術専攻の部員と私の間には、絵画の鑑賞能力において決定的な差、本質的な差異があったのであろう。年に1~2回の美術展には、私も出品していたが、あるとき6号の「砂丘」の絵に買い手がついた。はじめてのことである。私には価値がわからないので、部長に交渉してもらい3,000円の値がついた。部員は等しくこの臨時収入の恩恵を受けた。ちなみに、当時の授業料は月に換算すればわずか1,000円であった。

およそ100キロメートル離れた地にあった医学専門課程に進んでからは、マンクラに入部した。当時私は、独学でクラシックギターに熱中しており、勧誘もあってマンクラに入ったが1か月もたずに退部した。マンクラの集団が何となく肌に合わないというか、集団で何かを創造することが苦手であったからだ。ギターは集団で練習するものではない、と屁理屈をつけた。多くの女子部員に会えなくなるのは惜しいとは思わなかったが、セミプロ級のギタリストのテクニックを間近に見ることができなくなるのは残念だった。

次に文芸部に入ろうと思ったが廃部になっていた。紆余曲折はあったが、下宿でよく文学論を戦わせていた仲間2人と附属高等看護学校の女子学

生2人(誰がどういうコネクションで勧誘したのか、今となっては不明であるが)、そして私の5人で文芸部を復活させた。機関誌名は、従前の「ごず」^(註1)を使わせてもらった。当然のことながらワープロの時代ではなかったので、原稿はガリ版で印刷した。その多くの労苦を女子部員が担ってくれた。

皆、文才がなかったためか、創作活動よりも著名な作家や詩人について批評家気取りであれこれ論評することが多かったように思う。他人の禪で相撲を取っていたようなものだ。私は、とくにフランスの天才の少年詩人、アルチュール・ランボー(1854-1891)に傾倒していた。

ところで、本学の幾田伸司氏の研究(鳴門教育大学学校教育学会誌、第22号、5-10、2006)を見てみると、戦後の高等学校の国語の教科書に詩教材として取り上げられた作品には、高村光太郎や萩原朔太郎のものが圧倒的に多い。西洋の詩人としては、ボードレーヌやヴェルレーヌが散見される。しかし、何故か、フランスの「見者」、アルチュール・ランボーは取り上げられていない。ヴェルレーヌと親交のあったランボーの名はない。

ランボーは、15歳から20歳までを詩人として疾走し、ヴェルレーヌと訣別したその後の人生は俗物といわれながら商人として現実生活を送り、37歳で世を去った。ランボーの詩は、例えばこんなふうが始まる^(註2)。

「僕は出掛けた。底抜けポケットに両の拳を突っ込んで。」(「わが放浪」)。あるいはまた、「こないものか、こないものか、陶酔のその時は。」(「最高の塔の歌」)。そして、ユリイカ体験を結実させる。「もう一度探し出したぞ。何を? 永遠を。それは太陽と番った海。」(「永遠」)。

さて、紙幅をオーバーした。その後、「ごず」の運命はどうなったか。ともかく、5号まで発刊した。内容はともかく健闘したといってよいだろう。私が医学部を卒業して1年たった頃、文芸部は再び廃部となった。

私の大学時代のサークル遍歴はかくのごとである。転々としたので、何の芸も身につけなかったが、人生の味わい方は増したように思う。

(註1) スズキ目ハゼ亜目ハゼ科マハゼ属。ハゼは、マハゼなどおよそ2,100種類が知られている。山陰では、マハゼのことを「ごず」という。頭部が大きく、口も大きい。全体に灰褐色、腹側は白い。成長すると20センチくらいになる。外観はよろしくないが、生命力は強い。食して美味。

(註2) アルチュール・ランボーの詩集は、堀口大學訳で本学付属図書館に所蔵。引用した詩の断片は全て「ランボー詩集」による。

おめでとう — 教員就職率全国1位達成 —

◆ 副学長 大石 雅 章

平成22年3月に卒業した学生の教員就職率で、鳴門教育大学が78.3パーセントに達し、全国の44国立大学法人の教員養成大学・学部でトップとなりました（平成22年12月8日付、文部科学省発表）。昨今、大学卒業生の就職率が、社会問題化する中で、このような成果を達成し得たことは、誠に素晴らしいことであります。

その背景には、いくつかの要因が考えられます。まずその一つには、団塊世代の教員が退職期を迎え、採用人数の増大という社会現象が挙げられます。首都圏・関西圏などの都市部ではとみに顕著であり、徳島県など四国でも学校の統廃合などの問題も抱えてはいますが、以前の教員採用氷河期に比較すれば、その採用数は増加し、教員を目指す学生には明るい状況となってきています。

この教員採用数の増加は、どの教員養成大学・学部においても共通する条件であり、主要な要因は、本学の教育活動と、本学学生のそれへの取り組みにあると考えます。

私は採用試験の合格のためには、教師力と教採対応能力の2つの能力を育むことが必要であると

考えています。教師力には教科の理解力や授業力、さらに豊かな人間性を支える人間力も含まれ、また教採対応能力には教師力を基盤にした模擬授業や場面指導などの現場主義的な能力も要求されています。この2つの能力は相互に深く有機的に結びついています。本学では独自の実践的な授業システム（鳴門プラン）の導入など常に教師力育成のために授業内容を検討し、また、就職支援室を核に緻密なキャリア支援事業を提供し、教採対応能力の養成に努めてきました。教採トップもこれらの能力養成の成果であるといえます。

最後に、最も強調したい要因は、多くの学生が提供される授業や支援事業だけでなく、自主的に学びの仲間を作り、主体的に2つの能力を磨くまでに成長したことであったと思います。言い換えれば、トップをとれたのは、教職員の支援のもと、学生たちの努力の賜物であるといえます。

この学生たちの主体的な学びこそ、今後とも絶やさず、本学の伝統となるよう期待致します。



（卒業生との情報交換会）



（模擬授業・模擬面接）

〈就職支援行事の様子〉



退職にあたって

25年をふり返ると・・・

◆ 人文・社会系教育部（現代教育課題総合コース）教授 西村 宏

昭和60年4月、自然系（理科）教育コースに助教授として着任しました。このころは創設期で、大学院も既に出発していた第一部（当時）所属の院生が人文棟に在籍しているだけで、建物も、その人文棟と食堂しかなく、それ以外の本部棟などの建物は建設中か地盤への杭打ちが行われている最中でした。もちろん自然棟も建築中でしたので、人文棟の5階に教官研究室を間借りした状態での出発でした。翌昭和61年度から、自然棟が使用可能になり、院生とともに自然棟での授業が始まりました。歴史を書いていると、いくらスペースがあっても足りませんので、以下では私が理科コースおよび現代教育課題総合コース（旧総合学習開発コース）に在籍した25年間の出来事のうちでもっとも感激したこと、もっとも残念だったことを記し、記憶に残させていたいただきたいと思えます。

これら両極端のふたつの出来事は、ほぼ同時期に起こりました。いちばん感激したのは、申請し続けていた新しいタイプの装置開発に対して、平成7年度から3年計画で総額6,020万円の科学研究費補助金が採択されたことでした。さらにこれと並行して4年計画で申請していた別の3,850万円を計上した科学研究費も採択され同時進行で実施できたことです。特に装置開発では、教員養成系の学生や院生にも比較的容易に装置を扱うことと実験を行うことができ、それほど特別な化学処理など不必要な、同位体分析用の試料直接充填法表面電離型イオン源を組み込んだ質量分析計（右下写真）が構築できたことです。この時以来、15年余り停止することなく稼働し続け、今なお隕石物質中の軽元素同位体比データを供給し続けてくれています。この科研費の交付がなければ院生の

隕石物質の同位体研究実験はもとより、学部学生の卒業研究や私自身の隕石科学研究も滞っていたに違いありません。どなたかは知る由もありませんが、当時の科研費審査委員には今でも感謝し続けています。さらに、今年度末私が定年退職した後も、耐用年数をかなり過ぎたこの装置はまだもうしばらく稼働し、データを供給し続けてくれるに違いありません。それにつけても心残りなのは、私の後任でこの装置を継続的に利用して地球外物質に関する実験研究や授業を行うことができる若手教員が採用できないことです。

次に、もっとも残念だったことは、この装置が導入される前年度の初夏に急性心筋梗塞を患い、2か月間の療養を必要としたことと、その影響が16年経った今も残っていて、ほぼ1か月に一度の定期診察と薬の服用を欠かすことができない体になってしまったことです。同僚や先輩諸氏は一病息災と言って励ましてくださいますが、一度壊れた体は、超微妙な実験装置と同じで、なかなか従前のような状態にまで回復させることは困難です。

みなさま方におかれても、仕事や雑用に追われ続けて体を壊すことがないようにくれぐれもご注意なさりつつ、教育・研究に挑戦し続けてください。鳴門教育大学の飛躍と発展を心から祈念しています。





退職にあたって

ラオスへの教育協力の思い出

◆ 自然・生活系教育部（自然系（数学）コース）教授 齋藤 昇

鳴門教育大学へ着任して4年目の平成10年のことです。某県の放送大学の学習センター長から、JICA（独立行政法人国際協力機構）の専門家としてラオスの理数科教育協力を手伝ってほしいという誘いの電話をいただきました。開発途上国への教育協力は初めてのことで、不安はありましたが、引き受けました。平成10年12月に、その先生（理科）と私（数学）の2人が、日本の公的機関による初めての教育協力者として、ラオスを訪れました。その後4年間、毎年1～2か月間、ラオス国立教育研究所において、数学の教科書や教師用指導書の編集・作成の指導を行いました。

それらの教育協力を基盤として、JICAは平成16年に「ラオス理数科教員養成プロジェクト」を立ち上げ、協力体制を強化しました。プロジェクトは、日本の理数科教育のJICA専門家、ラオスの教育副大臣、教育省局長等の計11～13人で構成されました。目標は、ラオス全土の小・中学校の理数科教員の質を向上することでした。限られた期間で目標を達成するための方略として、ラオスにある8校の教員養成大学の理数科教員全員をトレーニングしてリーダーに育てることを考えました。彼らがラオス全土の小・中学校の教員を指導すれば、効率よくラオスの教員の質を高めることができ、さらに日本の専門家が帰国した後も、プロジェクトの目標が引き継がれると考えたからです。このプロジェクトは、平成16年8月～平成19年9月の4年間続きました。この間、鳴門教育大学におけるラオス大学教員の研修、ラオスにおけるワークショップの開催、ラオス教員による国内研修会開催を円滑に結合させて教育協力を実施しました。ラオスの教員養成大学教員による国内研修会（小・中学校教員対象）は、4年間で述



べ500～600回に及んでいます。

ラオスへの教育協力は、約10年に及びました。その間、多くのラオスの友人を得ることができました。その友人は、いつも私のラオス訪問を家族を迎えるように歓迎してくれました。一方、教育協力においては、教科書、教材・教具、教育予算等が皆無に近い状態で教員研修を行わなければならない現状を目のあたりにし、開発途上国の教育の質を向上していくことの難しさを痛切に感じました。平成19年10月にラオス総理大臣から教育協力に対する感謝状をいただきましたが、ラオス人の教育の質の向上・発展に対する強い熱意と人を思いやる心が込められているような気がしました。

ラオスへの教育協力は、私にとって、海外の教育とのかかわりの始まりであり、教育の方法、原理を改めて考えさせられた場であったと思います。振り返ると、鳴門教育大学は、先導的な教育研究の場として最適な大学であったと思います。

着任してから17年間、多くの方々に大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



退職にあたって

教員生活の反省にかえて

◆ 芸術・生活系教育部（保健体育コース）教授 坂本和丈

教員生活40年間のうち15年間、本学でお世話になりました。この間、先生方にはもちろんのこと、事務職員の皆様方には公私にわたりご指導ご鞭撻を賜り大過なく教育・研究に専念できましたことに対して心より感謝を申し上げます。有り難うございました。

私の教育・研究生活の始まりは、昭和46年4月学校法人増川学園「福山女子短期大学(保育科)」への採用でした。その3年後、昭和49年4月に福山市に移管され、「福山市立女子短期大学」となり22年間お世話になることとなりました。その間には、卒業論文の単位化、授業料免除の制度化、入試科目や入試制度の見直し、各種委員会の設置、教員の研究活動の活性化、教員採用人事の公正と透明化等々に携わり、良しきにつけ悪しきにつけ先輩教員とよく衝突しました。そのために昇任人事も遅れたようです。最大の問題は、優れた学生が多数在籍していたにもかかわらず、教員の研究活動に理解が示されなかったことと、教員採用人事の不透明でありました。このころから、他大学への転出を意識するようになりました。タイミングよく、当時の鳴門教育大学教授保健体育講座安藤 幸（現特任教授）先生から本学へのお誘いがあり、平成8年4月にお世話になることとなりました。

本学に採用される時点では、博士（教育学）を取得している予定でしたが、私の怠慢と能力不足で達成することができなくて、皆様方には「不義理」のまま退職することとなり、この紙面をお借りして心よりお詫び申し上げます。教員生活40年間の最大の心残りであると同時に、修士課程保健体育科教育学専攻を修了した者として不甲斐なさを感じております。一方で、学部生や大学院生の

卒業論文や修士論文についても満足できる指導ができなかったことに対して、卒業・修了生には心よりお詫びを申し上げる次第です。

私自身の研究成果は、「体育授業における知覚－運動行動の組織化」に焦点化して進めてきましたが、ある程度の方向性を見いだすことができました。今後、学会等で報告したいと考えております。

最後に、最近本学ではいくつもの新しい制度を求めて努力されていますが、必ずしも新しい制度作りのみでは質の高い学部生や大学院生を育てることはできないのではないかと思います。大学全体として、教員の研究活動に対する予算措置や人的構成、カリキュラム全体の見直し、授業の中味、ゼミ指導の在り方等々、少し時間をかけて教職員全体で検討することが必要ではないかと感じております。本学は優れた教職員の集団ですから、この集団を共通の目標に向かって組織化することにより質の高い鳴門教育大学として発展するものと確信しております。



学園を巣立つ前に

ありがとう！

◆ 学校教育学部幼児教育専修

「最初の印象」 西森 美貴

皆の最初の印象は、私は入学式の日、誰とも喋らずに終わってしまったけれど、仲良くなれるか心配しとったんやけど、次の日のオリエンテーションで皆に会ってすごい良い子ばかりで安心したのを覚えています。一人ひとりの具体的な最初の印象はここでは語り切れないので、直接聞いて下さい。♥

「幼教あるばむ」 津村 彩花

学祭ではビデオを撮りながら練習したかくし芸で見事優勝！必死で覚えたゴリエダンス。自然プロジェクトでは「おもしろくないわよ！」だった水鉄砲。愛情あふれる手作りの誕生日プレゼント。脱線ばかりで前に進まない話し合い。幼教と共に過ごした書ききれないほどの思い出、そして最高の仲間は私の宝物です。

「必要だった遠回り」 多田 典代

終わってみると、本当にあっという間でした。ひとより長くなってしまった大学生活。何度も投げ出そうとしてしまったけれど、それでも諦めずここまで来られたのは、支えてくれた友人たちや先生方のおかげでした。かけがえのない出会いから得た絆、これからもずっと大切にしていきたいです。

「御礼」 松本 香

面白くて美少女すぎるみさっちゃん。優しくて包容力抜群なまち。天真爛漫な癒し系つむ。歌って踊れる気配り屋さんにしゅん。意外としっかりしている天才肌なべーる。実習はあなたとだから乗り越えられた頑張り屋なふみよさん。皆と出会えてよかった！大好き！

「変わったこと」 見延 徹

大学生活で一番変わったことはものの見方だと思います。それは教育実習での経験が大きなものでした。教育大学で企業就職を迷いなく選択できたのも、教育実習で視野が広がったり、考え方が変わったおかげだと考えています。

「awa come」 佐伯 美郷

実家から鳴門へ戻るときは実家を離れるのが寂しくなり、鳴門から実家に帰るときは鳴門を離れるのが寂しくなりました。どっちにしても辛いだなんて、ひどいなとは思いましたが、鳴門に愛着が湧いているからこそその感情だと今になって気づきました。何度考えてもやっぱり不便だけど、もう一度住みたい土地だと感じます。

「今後の抱負」 庄野 真知

一つ目は一日一日、充実した生活を送る！仕事も恋愛も遊びも真剣に取り組む。あの時学んだ誠実さと謙虚さをいつまでも忘れないようにしたいなあ。二つ目は皆の冠婚葬祭に出席する！…くらいの気持ちで、ずっとこの出逢いを大切にしたい。卒業しても回線混み合うくらい連絡とろうね！

みんながいたから大学生活のりきました！
ほんま大好きやけん♥
卒業してからも集まるうな♥
にしゅん

みんなに一言

皆と行きたい場所はまだまだあったけど、もう時間がないようです。残念です。次はみさっちゃんの結婚式で会いましょう。

みさっちゃん

「卒業は終わりじゃない
これから仲間だから」
by放課後ティータイム。
まさにこんな気持ちです。
まち

皆に幸せなことがたくさん起こりますように。そして、その幸せを隣で一緒に祝いできますように。

かおり

みんなとやり抜いた実習のことは忘れません。やりにくかったろうけど、私なんかを受け入れてくれて本当にありがとうございます。

ふみよ

幼児教育のみなさんには、ほんとに、ほんとに、ほんっとーにお世話になりました。感謝しております。

べーる

しゅべって笑って歌って踊って…一緒にいるとなんでこんなに楽しいんだろ。本当にありがとうございます。大好きじゅ！

つむ



学園を巣立つ前に

人

◆ 学校教育学部技術科教育コース

(小学校教育専修) 田 中 一 鷹, 野々村 頼 和, 宮 本 裕 佑
(中学校教育専修) 飯 田 晃, 佐 藤 健士郎, 中 山 詩衣奈
堀 田 和 正, 山 岸 拓 朗

皆さんは、ここ、鳴門教育大学に入学した時のことを覚えていますか？真新しいスーツの袖に腕を通し、不安や希望…様々な感情が交錯する中でこの高島の地に一步踏み入れたのではないのでしょうか。私たちも当時のことは鮮明に覚えています。それから早4年が過ぎ、この鳴門教育大学を卒業する日が近づいてきました。4年間は本当にあっという間に過ぎていきました。忘れられない思い出や出来事でいっぱいの4年間でした。その中には挫折や辛い思い出も多くあります。そんな時、支え合い高め合ったのは、同じ科の友人達でした。同じ学年がわずか8名と少ないことで、学園祭では互いに協力し合い、テスト勉強の時は互いに知識を交換し、教員採用試験勉強の時は互いに高め合って切磋琢磨できたと思います。

鳴門教育大学は少人数で構成されている学科がほとんどです。人数が少ないことで、ぶつかったり、友人を理解できなかつたりすることもあります。でも、人と人とのつながりは自分自身を助け、友人達を助けることにもなります。相手を知る、「人」を知る事の意味や良さを知ることのできた

4年間でした。

大学の講義の中でも、「人」との関わりは多々ありました。ここ、鳴門教育大学は、前にも話したように、少人数で受講します。そのため、講義の中で、先生方との関わりも非常に濃く、有意義なものであると言えます。私たち技術科は、他の科に比べ実習が多くあります。その実習の中で、受講生同士で協力するだけでなく、先生方の指導やこだわりを知ることができました。例えば、木材を加工して箱を作る活動の中では加工の仕方を学ぶだけでなく、一緒になって工夫したり、実際の学校現場ではどのような授業を展開しているのかを話し合った思い出があります。講義の中で、時に学生と同じ目線に立って指導して下さった先生方との思い出は、今後の私たちを成長させてくれる糧だと思います。4年間ご指導をいただいた先生方には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

4年間での「人」との出会いは、まだまだたくさんあります。部活・サークルや、アルバイト先など、皆多くの出会いをしてきました。たくさんの「人」と出会い、たくさんの「人」から学んだことは私たちの大切な宝物です。

これを読んで下さった皆さんも、この鳴門教育大学での「人」との出会いを一つひとつ大切にしてください。そして、たくさんの「人」との出会いによって、自分自身を大きく成長させていってください。

ここでの4年間は本当に有意義なものでした。私たちを支えて下さった皆さん、本当にありがとうございました。



学園を巣立つ前に

好きです，鳴教

◆ 学校教育研究科 楠井愛美

やっとの思いで修論を書き上げ、一息ついている1月某日。まもなく修了を控えている私ですが、今改めて振り返ると、大学院で過ごした2年間は本当にあつという間でした。でもとても中身の濃い、充実した日々だったことは間違いありません。いつも風が強く、空は澄んでいて、猫と共に歩き、ヤシの木がよく分からない木々に囲まれた環境の中、かけがえのない（という一言では言い表すことができないほどですが）思い出ができました。

臨床心理士養成コースでは、心の問題を抱えた人たちをどのように理解し、援助出来るか、そのために自分に必要なことは何かについて、豊富な授業や実践を通して学ぶことができました。知識はもちろん、自分自身の心を動かし、目の前の方に寄り添うことの大切さを教えていただきました。

共に笑い、悩み、支えあった同じコースの仲間たち。いつも見守ってくださった先生方。本当に

仲間ってあたたかいです。出会えて幸せです。今後も変わらない絆で繋がっていると信じています。同じ空の下で頑張っていきましょう。鳴教に来て本当に良かったです。出会ったすべての人たち、すべてのことに感謝をこめて。ありがとうございました。

〈人間教育専攻 臨床心理士養成コース〉



学びの場に寄せて

◆ 学校教育研究科 越智達哉

早いもので、鳴門に来て6年が過ぎようとしています。けれど、この6年間は少しも無駄ではなかった。振り返ると、心からそう思います。

選びきれないのですが、ここでは、2年間の院生生活について書きたいと思います。学部生としての4年間は、教師として必要なことを数多く学べた、本当に貴重なものでした。けれど、4年間の学生生活を終えた時、教育について、教師について、私には、まだまだ分からないことばかりでした。院生となって2年間は、それらの疑問にもう一度向き合い、自分が逃げていたもの、見て見ぬふりをしていたものについて、ひとつひとつ考えていきました。そして先日、何とか納得できる程度の修士論文も書きあげることができました。

何度も疑問を投げかけ合ったゼミ、コースのみんな。そして、私の疑問を正面から受け止め、数え切れないほどの示唆を与えてくれた、太田先生

を始めとする現代教育課題総合コースの先生方のおかげです。感謝の気持ちが尽きません。

また、6年もの大学生活をここまで充実したものに出来たのは、大学で出会えたたくさんの友人、先輩と後輩達、職員の方々、そして、熱心にご指導いただいた先生方のおかげに他なりません。本当にありがとうございました。

期待は決して裏切りません。

〈人間教育専攻 現代教育課題総合コース〉



学園を巣立つ前に

本当にありがとうございます

◆ 学校教育研究科 CHAMLEUNSAB Mayuly (ラオス)

2008年10月から、私は研究生として鳴門教育大学に入学しました。

ラオスの地を離れてから約2年半の間、この鳴教大では、たくさんの出会い、そして、たくさんの学びを得ることができました。

入学してからしばらくの間は全く日本語を理解できず、いつも英語、母国語に頼る毎日でした。しかし、数学科教育コースの皆さんや、私に興味を持って話しかけてくれた友達に助けられながら



今では会話もできるようになり、夢にまで日本語が出てくる程になりました。

大学生活で特に印象に残っていることは、留学生に対しての配慮についてです。年に何度も留学生のために様々なプログラムを計画してくださり、とても感謝しています。お陰で色々な日本の文化、それを通じてたくさんの人達に出会うことができました。このように、この文書では書ききれない程の経験を鳴教大ではさせていただきました。

最後になりましたが、お世話になった数学科教育コースの皆さん、時に厳しく、時にやさしく指導してくださった先生方、そして、いつも私達留学生を支えてくださった、国際交流チームのスタッフの方々、本当にありがとうございました。これから母国へ帰って、ここでの経験を生かして頑張りたいと思います。

〈教科・領域教育専攻 国際教育協力コース〉

～鳴門での最高の2年間～

現職教員という教える立場から一転して、大学院に入学し、もう2年が過ぎました。本当にあっという間の2年間でした。

中学校の現場では経験することができない事を、たくさん経験させていただきました。学会の参加に始まり、同じコースの同級生とのミーティングや授業研究。バドミントン大会の運営。教育実践フィールド研究の授業では、鳴門教育大学附属小学校で低学年の小学生対象の授業研究。小学校の経験の無い自分にはとても良い経験になったと思います。

保健体育コースでは、スポーツ情報、学校体育経営、スポーツ心理学、スポーツ・トレーニング等の授業で多くの先生方に教えていただきました。

藤田雅文先生のもと「体育・スポーツ経営学」を学び、修士論文の作成。自分の研究をするためには、多くの情報が必要であること。それをまとめる為には、たくさんの知識が必要であることを学びました。

◆ 学校教育研究科 山本 賢

様々な場面で、未熟な自分に温かい指導をしてくださった先生方、保健体育コースの方々、この場をお借りし、お礼を申し上げます。本当にお世話になり、ありがとうございました。

この2年間で経験した全ての事をこれからの糧として、また現場に戻り、教員生活に生かして行きたいと思っています。

〈教科・領域教育専攻 生活・健康系コース (保健体育)〉



課外活動 サークル紹介

やってみようよ 手話！

みなさんこんにちは。手話サークルぱびぷべぼです。

みなさんは手話を見たことがありますか？

テレビなんかで見たことがあるという方もいると思います。手話サークルではみんなで手話を勉強し、徳島県の聾学校で行われる手話祭りや鳴潮祭で手話コーラスや手話劇を発表をしています。

また、ボランティア活動にも沢山取り組んでいます。なかでも去年9月17日から19日までの3日間徳島で行われた「全国ろうあ者体育大会」でのボランティアでは鳴教大から80人参加しました。

このボランティアでは、僕たちと同世代のろう者の方からお年寄りの方まで、沢山の人たちと一緒に活動しました。手話サークル以外の学生も参加していましたが、あっという間にろう者の方たちとコミュニケーションが取れるようになっていました。

3日間という長い時間、耳の聞こえない人たちと一緒に過ごすという経験はなかなか出来るもの

◆ 手話サークルぱびぷべぼ 池田達哉

ではなく、僕たちの将来に、きっと役に立てられると思います。

手話って難しそうだなと感じている人もいますが、そんなことはありません！

ジェスチャーみたいな手話もあってとても面白いんですよ！

ぜひ、一緒に手話を勉強して自分の世界を広げましょう。

〈中学校・数学 2年〉



(手話劇 in 鳴潮祭の一場面)

1 部昇格！！



みなさん、こんにちは。女子ハンドボール部です。

私たちは、経験者あり、未経験者ありのメンバーです。練習は週3回、全員で楽しく仲良く、集中

◆ 女子ハンドボール部 安岐美佐子

して全力で、一生懸命練習しています。

一見、ごく普通の部活のように思えるでしょう？…実は一味、いや、それ以上も違います。

練習の成果が実り、昨年の秋の中国四国大会では2部で優勝し、念願の1部昇格を果たしました。個性的な部員が集い、学年を超えて高めあい、成長しています。

ハンドボール部では得るものが星の数ほどあります。みなさんも是非、一緒にハンドボールをやってみませんか？

〈小学校・理科 2年〉

課外活動 News

クリスマス・イルミネーション

去る12月1日から16日の間、恒例になった学生会主催「クリスマス・イルミネーション」が、点灯されましたが、みなさん楽しんでいただけたでしょうか。

「きれいなあ〜」、「(卒業だから)これを見るのも最後なんじゃ〜さみしいなあ」という声も「…ちょっと地味ちゃう?」という声も、とりあえずまとめて「これが鳴教の手作りイルミネーション!」ということにしちゃいましょう。年々少しづつ進化していけたらいいですね☆

学生会のメンバーは、暗い中でのイルミネーション設置、毎日の点灯・消灯、あったかいココアの配付…と大変ですが、楽しそうに活動しています。

大学祭が終了して少し寂しくなった鳴教での、心やすらぐ冬イベントでした。



サークル・リーダーシップ・セミナーの実施について



1月29日(土)、本学講義室で、平成22年度サークル・リーダーシップ・セミナーを開催し、サークル代表34人が参加しました。

地元鳴門消防署員による「普通救命講習」では、人工呼吸、胸骨圧迫、AED(自動体外式除細動器)の使用、という救命処置の一連の流れを実習し、最後に一人ひとり「修了証」を交付されました。

また、各サークル内の問題に関する解決策についてグループ討議を行いました。明確な解決策はありませんが、悩みを共有し話し合ったことで、抱いていた不安が少しは和らいだのではないのでしょうか。

課外活動中の事故防止と保険について

課外活動中に骨折などの事故が発生したとの報告が多くなっているようです。激しいスポーツに怪我はつきものですが、怪我の程度を最小限にするためにも次のことに注意して活動を行ってください。なお、詳細は毎年各学生団体に配付している「学生の課外活動中の事故防止のための手引き」を読んでください。

- ・各自が日常の健康管理を十分に行うとともに、リーダーは部員の健康状態の把握に努める。
- ・能力に見合った、合理的かつ安全な練習計画を立てる。
- ・十分なウォーミングアップを行う。
- ・活動にふさわしい服装(ウェア、シューズ、防具等)をする。



通院を要するようなけがをした際には、速やかに学生課に報告してください。全員が加入している「学生教育研究災害傷害保険」(「学研災」)の給付対象となります。

なお、「学研災」は、課外活動中の事故の場合、治療日数(病院への入・通院日数)が14日以上の場合でないと、原則として保険金は支払われませんので、体育系団体については、別途「スポーツ安全保険」(スポーツ安全協会)に加入することをお勧めします。

資料を希望する団体は、学生課学生生活支援チームまでお問い合わせください。

<参考>スポーツ安全協会ホームページ <http://www.sportsanzen.org/>

≡ 学生会・院生会だより



先輩お世話になりました

4年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

各科での行事や部活・サークルでの活動をはじめ、先輩方には大変お世話になりました。入学当初は教員養成大学に入学したという実感があまりなかった私たちは、教育実習での、普段とは違った当時3年生だった先輩方の姿を見て「2年後、私たちは先輩方のようになれるのだろうか」という話を同学年の友人たちと話し合いながら気を引き締めたことを今でも覚えています。また、夜遅くまで勉強会を開催するなど教員採用試験への対策に真剣に取り組んでおられた姿に、私たちも頑張ろうという思いを新たに抱きました。

普段は明るく面白く接してくださっていても、真剣な相談をもちかけると的確にアドバイスしていただきました。入学したときには2つ上の先輩とはなかなかお話しすることもないだろうと思っていたのですが、実際は多くの場面でお世話になりました。

◆ 学生会副会長 吉浦早紀

学生会が主催したイベントにも積極的に参加して盛り上げていただいたり、お手伝いしていただいたりとありがとうございました。この場を借りてお礼を言わせていただきます。

卒業式の後には卒業記念パーティーも予定しており、盛大に行う予定ですのでどうぞ楽しみに。

〈中学校・国語 2年〉



昨年度の卒業記念パーティーの様子

今年1年を振り返って



院生会ソフトボール大会

入学してから、1年が経とうとしています。思えば、小学生の頃は、1日がたっぷりあったように感じていたのに、今は、もう毎日が鳴門の風のように渦をまき、すばやく目の前を通りすぎていきます。

院生会というのが何なのか全く分からないまま

◆ 院生会会長 番場友基

に、始まったバレーボール大会の企画・運営。前年度などの資料はあったものの、ほぼ手探り状態で進んでいった日々。7月になると、国際交流パーティーがあり、みんなでどうしたら名前の通り交流、人と人との関わりのキッカケとなる場を作ることが出来るかと、試行錯誤の日々。11月には、ソフトボール大会。晴れたグラウンドで、思いっきり各チームがプレイしている姿を思い浮かべながら、準備した日々。全ての企画で、たくさんの笑顔と出会うことが出来ました。これもまた、一生懸命企画・運営していただいた院生会役員の皆様とそれに参加していただいた各コースの皆様のおかげです。

2010年度の院生会も、皆様にとって、少しでも意味のあるものだったと思っていただければうれしく思います。1年間ありがとうございました。

〈特別支援教育専攻 1年〉

学生表彰について

本学には、課外活動等において、優秀な成績を修め、かつ本学の名誉を高めた場合において当該学生又は学生団体を学長が表彰する学生表彰制度があります。

平成22年度における表彰が決定した方々は、次の皆さんです。



	氏名(団体名)	所 属 (学 年)	表 彰 事 由
前 期	長栄 知佳	人間形成・院1年	第31回徳島県女子剣道大会(25歳未満の部) 優勝
	内山世璃奈	幼年発達支援・院1年	第31回徳島県女子剣道大会(25歳未満の部) 3位
	張 鋒	言語系(国語)・院1年	2010年度外国人による徳島県日本語弁論大会 最優秀賞
	西村 大喜	芸術系(美術)・院2年	第10回大分アジア彫刻展(学生部門) 奨励賞
	前橋 義浩	芸術系(美術)・院2年	第70回美術文化展 美術文化賞・損保ジャパン美術財団奨励賞
	金澤 健司	生活・健康系(保健体育)・院2年	第61回四国地区大学総合体育大会 400m個人メドレー優勝, 200m自由形3位 徳島県選手権水泳競技大会 50m自由形, 200m個人メドレー優勝(大会新記録)
	福良祐香子	幼児教育・学部2年	第45回中国四国学生水泳選手権大会 100mバタフライ3位 第61回四国地区大学総合体育大会 50mバタフライ優勝, 100mバタフライ2位
後 期	齊藤 綾子	中学校美術・学部4年	第18回放美展 放美賞
	女子ハンドボール部		第37回中四国学生ハンドボール選手権大会秋季リーグ戦 II部優勝(来年度春季リーグ戦I部昇格決定)
	西村 大喜	芸術系(美術)・院2年	第65回徳島県美術展彫刻部門 準特選
	小川 紗奈	中学校音楽・学部2年	第2回徳島県音楽コンクール声楽部門(大学・一般の部) 銀賞
	剣道部(男子)		清原杯争奪第55回県下剣道大会 男子国体3位

溝上賞

この溝上賞は、本学の第4代学長、名誉教授であります溝上 泰氏の功績をたたえる顕彰事業として設けられたもので、溝上氏から寄贈された基金によって運営されており、上記の学生表彰被表彰者のうち、特に顕著な功績をあげたものの中から一人又は1団体を表彰するものです。

平成22年度の受賞は、次の方に決定しました。

西村 大喜(芸術系(美術)・院2年)



前期 学生表彰表彰状授与式(大学祭メインステージ)

中学校 想いを実感できる揮毫式

1月6日、昭和26年から続く揮毫式が、60幅の有名録と100名を超える保護者に見守られながら、本校体育館において、厳かにとり行われました。

有名録には、その当時に在籍した職員・生徒の名前が揮毫されています。「文字は人を表す」という言葉がありますが、どの文字にも自分の存在を確かめながら揮毫した力強さが感じられました。だからこそ、揮毫式に参加した誰もが、本校に集う先人の想いを実感し、心が引き締められました。

大勢の人々の想いを実感できる揮毫式は、今年、地元TV局の取材を受け、その様子が放映されました。

揮毫式の後、生徒は教室で新年の抱負を雄志録

◆ 附属中学校 紅 露 瑞 代

へ揮毫しました。生徒の姿を見ると、附属中学校の伝統は、人々の想いが繋がり今日に至っているということ再認識するだけでなく、それを受け継ぐものとしての誇りと責任を感じているようでした。感性ある生徒の気持ちを大切に育てていきたいと思いました。



特別支援学校

2年連続！！徳島県手工芸展入賞

今年度の徳島県手工芸展で、本校の高等部生徒の陶芸作品がロータリークラブ会長賞を、中学部生徒がグループで制作したパッチワークが佳作を受賞しました。中学部パッチワーク班は、昨年のロータリークラブ会長賞に続く連続受賞です。

本校の中学部・高等部では、作業学習の一環として、陶芸・パッチワーク・機織り・紙工・木工等に取り組んでおり、陶芸室には電気窯、木工室には旋盤機や帯鋸・昇降盤、機織り室には機織り機と、本格的な機械が並んでいます。機織りとパッチワークは専門の先生をお招きしていますが、陶芸には、地域の方がボランティアとして指導に参加してくださっています。

作業学習で制作したいろいろな作品は、秋の学校展をはじめ、交流プラザフェスタ等いろいろな機会で開催・即売しています。また、木工班が製

◆ 附属特別支援学校 郡 俊 恵

作した積み木やテーブル、台本板は附属幼稚園や市内の小学校で活用されています。

来年の学校展にはぜひお越しください。お待ちしております。

パッチワーク「ハーモニー」



陶芸作品「早春賦」

幼稚園 子どもたちや周りの人々に支えられて

昨年3月に鳴門教育大学を卒業し、4月より新任教諭として5歳児山組30人の担任となり、現在10か月が過ぎました。分からないことやできないことだらけで、自分の未熟さを感じながら過ごす毎日の連続です。

今、幼稚園では表現会に向けて生活をしています。その中で「ほがらかもりのくぬぎのき」のオペレッタをしますが、子どもたちは、物語を思い浮かべ、それぞれの役に入り込んで、全身で感情を表現します。チョウが森を壊されることを知り悲しそうにする表情や、カブトムシの力強い動きなどを表現する子どもたちの姿を見て、私は鳥肌が立ちました。この感動や、「君たちは素晴らしいんだよ」という思いを、子どもたちに伝えていきたいです。

◆ 附属幼稚園 杉山 健人

子どもたちと生活していく中で、一つ一つの出来事が、私を育ててくれています。子どもたちの笑顔や保護者の皆様、先輩の先生方に支えられて、頑張っていることに日々感謝しています。



小学校 学校保健委員会

昨年度より、「親と子どもの心の健康を考える」をテーマに学校保健委員会活動を展開しています。学校での生活や家庭における親子の関係に関するアンケートを、昨年度は保護者対象に、本年度は子どもを対象に実施しました。委員会のメンバーでアンケート結果を集計し、考察や感想を入れた



◆ 附属小学校 滝川 つぼみ

通信を作成し、1年に3回発行しています。

活動を通して見えてきたことは、本校の子どもたちはよく頑張り、保護者も子どもに大きな期待をもって熱心な子育てをしているのですが、お互いに力が入りすぎてストレスになっていることも多いということでした。そこで、大学から先生を講師としてお招きして、保護者対象に講演会やワークショップを開催し、子育てについて考え直したり、悩みを共有したりする機会をもちました。参加された保護者の方々は、「頑張り過ぎない、ほどよい子育て」をする良さに納得され、今後に生かしていけるものとなったようでした。

子育ては長いようで短く、親のかかわりが大きいのは小学生までだと言えます。その間、親子が楽しい毎日を送ることができるよう、この活動を広げていきたいと思っています。



第4回日中教師教育学術研究集会



基調講演をする田中学長

2010年（平成22年）12月11日、12日の両日、大学間交流協定校である中国の北京師範大学と本学の共催で、日中教師教育学術研究集会が本学を会場に開催されました。

北京師範大学は、100年以上の歴史をもち、中国の重点大学に指定されている超エリート大学であり、師範系ではトップ大学と言われています。学生数は約2万人で、その半数近くが大学院生です。教育学部（学院）のほか、文学、法学、経済学、心理学、数学、物理学、化学、芸術、体育など、多くの学部があります。

この北京師範大学と本学が協力し、2004年に、両国の教育現場に活かすことのできる教師教育システムの構築について具体的な改革案を提案し教師教育の質的向上を目指すことを目的に、研究集会を開催しました。その後、隔年で日中相互に開催され、今回が4回目となります。

当日の参加者は、日本国内からは田中雄三鳴門教育大学長をはじめとして、若井彌一^{やいち}上越教育大学長、そして大学だけでなく中学校や高等学校の教員及び大学院生ら91人にのぼります。一方、中国からは周^{さくう}作宇北京師範大学教育学部学部長

◆ 理事・副学長 山下一夫

をはじめとして、8大学34人です。全体で、合計125人の参加者を数えました。

まさに「^{とも}朋有り、遠方より来たる、また楽しからずや」（遠くから学問の仲間が訪ねてくるのは、なんとも楽しいことだ）です。ところで、孔子のこの言葉は、学ぶことの喜びについて述べており、『論語』の開巻第一章にあります。良き教育とは、子どもに対し上手に教えるだけでなく、子どもを育てようとする事、そして何よりつねに自ら学んでいることが大事ではないでしょうか。

さて、田中学長は、歓迎挨拶において「本研究集会を『黎明期』から『充実期』へと発展させるとともに、北京師範大学と本学とのより一層の友好親善を深めていきたい」と述べました。

実際、多くの人から「4回のうちで、今回が一番充実していた」と、お褒めの言葉を頂戴しました。その理由として、次のようなことが考えられるのではないのでしょうか。

1番目に、研究集会の回を重ねるにつれ、例えば大学院における現職教員への再教育のように、日本と中国がお互いの教師教育の共通点を見いだせるようになり、議論の歯車がかみ合ってきたよ



大塚国際美術館見学

国際交流



うに思います。

2番目に、中国参加者が本学附属小・中学校の授業見学を行ったことに象徴されているように、お互いに教育実践を大事にするという仲間意識が芽生えてきたように思います。

3番目には、この研究集会の立ち上げにご尽力いただき今回も参加された佐々木保行鳴門教育大学名誉教授・北京師範大学客座教授、^{がいせい}勞凱声前北京師範大学教授・首都師範大学教授、あるいは、今回の開催準備に携わり通訳で活躍された^{じやん しん}姜星^{はい}海北京師範大学教育学部副教授に代表されるように、お互いの大学間における人的交流の蓄積が確

かなものになってきました。なお、姜先生は今年の7～12月、本学の外国人客員研究員として再度来日されます。

最後の4番目は、「楽しからずや」です。友とともに学ぶ楽しさが真意ですが、懇親会や芸術系コース（音楽）による音楽会など、各種の楽しい歓迎行事が催されることにより、参加者全員の交流が一層深まりました。

充実した研究集会だったこともあり、最終日に周先生から次回開催のご提案をいただき、第5回は、2012年9月に北京市で開催されることとなりました。



全体会研究発表をする若井上越教育大学長



レセプションでの歓談



基調講演をする周北京師範大学教育学部学部長



開会式の司会をする山下理事及び姜北京師範大学副教授



分科会の様子



北京師範大学からの記念品贈呈（向かって左は西園理事）





留学体験記 —アメリカ イーストカロライナ大学留学報告—

◆ 学校教育研究科 中住幸治

インターネット等メディアの発達により、海外の情報もリアルタイムで入ってくる昨今ですが、それでも実地で得られる情報にはかなわない面も大きいと思います。また、あえて日本とは違う環境に身を置き生活し、同年代の国籍の異なる友達を多く持つことはかけがえのない今後の財産になると思います。私は2010年8月から12月までの5か月アメリカのEast Carolina Universityに短期留学しました。本校はNorth Carolina州のGreenville市という、いわゆる大学町にあります。寮は、基本的に留学生はみんな同じ寮に入りますので、まずはいろいろな国からの留学生の友達ができるのではないのでしょうか（私の場合は大学院コースを選んだこともあり、違う寮に入りました。ルームメイトはやはり大学院生のイラン人でした）。寮費には光熱費関係は全て含まれています。食事は大きな食堂が二つ（取り放題、食べ放題!）、加えて様々な場所に大手のチェーン店が入っています。基本的には事前にmeal planというものを購入することになります。これで、食事代が格安で1学期間保障されます。加えて、pirate bucksといって、キャンパス内のコンビニに近い食品店で専用のカードを使って購入できる、というものがセットになっており、少なくとも平日は現金を使うことはほとんどありませんでした。大きな買い物は大学から無料でtransit busが出ており、それを利用して郊外へ行って行きました。運動施設も充実しており、学生は無料で使用ができます。私もバドミントン、スクワッシュ、ロックマウンテン等で利用しました。

授業は、学部コースは早い授業が朝8時から夕方まで、授業時間は50分1単位が基本で、月水金（週3）、火木（週2）のセットで行われています。私が取った大学院コースは事情が異なります。というのも、仕事を兼ねて勉強する学生がいること、ストレート院生もGAといって、日中教授のもとで助手として働く仕事をするのが普通のため、



ランチの様子（向かって右から2番目が筆者）

授業はオンラインか夜間になります。私の場合はオンラインが2つ、夜6時から9時までの座学が1つでした。課題やリサーチは大変でしたが、自分にとってはいい経験になりましたし、とにかくやるべきことをやっていたら何の問題もないと思います。オンライン授業も、最初は違和感を感じていましたが、毎週決められた課題を読み、英語でコメントを書き、クラスメート全員のコメントを読むことで、自分のスキルアップだけでなく、クラスメート全員の考えを毎週読み、書き込み形式で議論することで自分の見識も広がったと思います。座学ではクラスメートのアメリカ人や留学生と一緒に勉強する機会もあり、それをきっかけに友達になりました。

また、ECUでは日本語の授業があり、授業を取って日本語を練習したいアメリカ人学生もかなりいます。そういう場合conversation partnerといって、こちらが英語向こうが日本語、とそれぞれスキルアップを目指して週1または週2会って半分日本語半分英語でお互い会話して教え合う、ということが出来ます。私の場合は3人とセッションを続けましたし、これをきっかけに他のアメリカ人とも知り合いになり、夕食会、パーティー、郊外のイベント等と一緒に行きました。日本人は5~6人とそんなに多くなくみんな学部もバラバラで頻繁に会うことはないと思いますが、食事会やイベントの紹介等で連絡を取り合っていました。また、ECUにはWorld Through Our Eyesといって

国際交流



留学生や海外渡航経験者が地元の学校を訪問してその国の紹介をする、というプログラムがあります。私の場合は、1学期間で4校11回のプレゼンを小1～中1の生徒に行い（有給）ました。地元の無邪気で好奇心旺盛な児童との触れ合いはとても楽しいものでした。また、準備段階で日本のことをいろいろ調べることになり、母国日本のさらなる理解につながったと思います。

勉強以外のイベントも盛んです。主に International House や地元の教会主催で各種パーティー、郊外のフェスティバル (seafood festival, state fair 等) イベントの企画があり、アメリカ人学生・留学生との交流を深めることができます。もちろん個人レベルでのパーティー、日本と違い自分で企画するのが普通のバースデイパーティ等もいろいろあります。

私も実は、当初は大学での授業、研究が主目的で留学を志したのですが、今では中国、韓国、インド、パキスタン、イラン、イラク、ドイツ、フィ

ンランド、スウェーデン、ブラジル、コスタリカ、ガーナ、カメルーン、オーストラリア等様々な国からの留学生やアメリカ人学生と知り合い、アメリカで始めた facebook で帰国後もお互いの近況を知り、連絡を取り合っています。行先は必ずしもアメリカである必要はないと思います。是非鳴教の交換留学制度を積極的に利用して、自分の見聞を広げ、多くのものを吸収してはどうでしょうか。



ECU の図書館 Joyner Library

外国人留学生見学旅行(1泊2日)に参加して

◆ 学校教育研究科研究生 **于** **瀛** **勃** (中国)

今回の見学旅行では、日本の風土・文化・産業等に接し、日本に対する理解をより一層深めることができました。特に印象に残ったのはパナソニックエコテクノロジーセンターで、古い商品から再び利用できるものを回収して新しい商品に使うという資源の再利用を行っていました。環境を守ることの大切さがよく分かり、これから環境を大切にしなければならないと感じました。

大阪では、大阪歴史博物館を見学しました。そこで、大阪に対する理解も深くなり、さらに大阪のことを好きになりました。京都も深い歴史を持っており、世界のどの国の人でも行きたいという有名な金閣寺を見学しました。その威厳のある雰囲気、キラキラしている輝きは印象深く残っています。ぜひ、もう一回行きたいと思います。

また、西陣織会館と東映太秦映画村では、日本

の昔の建物、人々の生活をとても面白く展示していました。日本の古い風土を身近に感じることができました。

今回の見学旅行をとおして、大学では勉強できないことをいろいろ知ることができました。



図書館だより

卒業・修了後の図書館の利用について

卒業・修了後も図書館を利用することができます。利用方法としては、以下の2つの方法があります。

◎来館しての利用

図書の貸出、館内資料の複写等ができます。

図書の貸出をご希望の場合は、身分証（保険証等）を持参してください。「卒業生・修了生利用証」を発行いたします。

◎非来館での利用

利用者から申し込みのあった図書について郵送等により貸出を行なっています。なお、郵送料は申込者負担となります。

貸出手続きの詳細については、図書館ウェブページ (<http://www.naruto-u.ac.jp/library/>) の「一般利用の方へ」→「非来館貸出」をご覧ください。電話でお問い合わせください。(TEL 088-687-6156)

* 来館貸出、非来館貸出ともに図書の貸出冊数・貸出期間は以下のようになっています。

貸出冊数	貸出期間
5冊以内	1か月以内

※卒業・修了生へは雑誌の貸出はできません。

2月末日で学生証での貸出はできなくなっています。

3月1日からは、「卒業生・修了生利用証」を発行していますので、図書の貸出をご希望の方は、お早めに手続きを行なってください。



マイライブラリの利用について

「マイライブラリ」は、インターネット上で、図書館からの連絡事項や利用者自身の現在の貸出状況の確認、学外機関からの文献取寄せの申し込み等ができるサービスです。

大変便利なサービスですので、ぜひご利用ください。

なお、「マイライブラリ」が利用できるのは学内者に限定されています。

◎アクセス方法

図書館ウェブページの「マイライブラリ」をクリックするとログイン画面が表示されますので、「利用者ID」、「パスワード」を入力してください。

※利用者ID、パスワード

学生…情報基盤センターのパソコンにログインする際のユーザーID、パスワード。

教職員…メールを利用する際のユーザーID、パスワード。

各種ガイダンスについて

図書館では、学内の方を対象に下記の期間にデータベース検索や、雑誌論文などの収集を手助けする各種ガイダンスを実施しています。

詳しい日時などは、図書館掲示板、院生研究室などに適宜掲示いたしますので、ご確認の上、お申し込みください。

また、それ以外でも相談を受け付けておりますので、平日の17時15分までにカウンターへお越しください。

4月/新入生のための図書館オリエンテーション

春～秋頃/情報検索ガイダンス

データベース講習会

(大学院生、学部生、教員対象)

健康手帳

先人の知恵に学ぶ健康法

◆ 心身健康センター所長 廣瀬政雄



「一芸は万芸に通ず」とは世阿弥のことばですが、「ひとつの事を極めていくと、他の事柄にも通じる精神を理解できるようになる」こととされています。「一病息災」とは、「持病が一つくらいある方が、無病の人よりも健康に注意し、かえって長生きであるということ」と広辞苑にはありますが、一つの病気の健康法に通じると、ほかの病気の健康法にも通じる、というような世阿弥流の解釈もできるのではないのでしょうか。また、中国の書で楚辞に出てくる「羹（あつもの）に懲りて膾（なます）を吹く」は「失敗にこりたあまり、用心深くなりすぎること」のたとえですが、健康に関する限りこれでもいいかもしれません。

さて、「病（やまい）は気から」と言われますが、長生きした人は異口同音に「くよくよしないこと」を強調しています。外界の情報は、脳の中央にある視床に集められて、上位の脳や下位の視床下部・下垂体系に送られます。脳は上位中枢として自律神経系に影響を及ぼします。自律神経系は交感神経と副交感神経とから成り、胃腸や心臓などの内臓を二重に支配し、緊張と弛緩の状態を作り出しています。また、下垂体からは8種類のホルモンが分泌されて、ストレスに対する反応、成長、食欲、渇き、睡眠、性欲、意欲および病気に対する反応など、体内の様々な生理状態を調節しています。時には人の行動や感情にも影響します。

ストレスがかかると、副腎から「糖質コルチコイド」（一般的に「ステロイドホルモン」と呼ばれる）が分泌されます。糖質コルチコイドの作用は、筋肉脂肪組織の蛋白分解、アミノ酸からの糖新生による血糖値の上昇および脂肪分解と脂肪酸を遊離する働きなどですが、高濃度では、抗炎症作用、免疫抑制作用、抗アレルギー作用、骨粗鬆症、高血糖、胃潰瘍さらにクッシング症候群（中心性肥満、にきび、皮膚線条、赤ら顔などの症状を示す病態）を現すようになります。抗炎症作用、免疫抑

制作作用および抗アレルギー作用などは治療面で役立っていますが、免疫抑制状態では感染症や発癌に対抗する力が低下します。自律神経系、内分泌系あるいは免疫系に変調を起した病態は「心身症」といわれます。これには、歩行障害などの運動系の異常や感覚系の異常を伴うこともあります。

感染症や発癌に対抗する免疫力のひとつで、NK(Natural Killer)活性は笑いによって高められるということがあるようです。「笑う門には福来る」ということわざにはいろいろな意味が込められていたのですね。英語では「Fortune comes in by a merry gate.」の意味がこれに近いとされていますが、世界中に広がってほしいことばです。

孔子は「物事には程度というものがあり、その程度を過ぎると、かえって不足するのと同じようによくはないことになる」という意味で「過ぎたるはなお及ばざるがごとし」と言いましたが、食べ過ぎ、飲み過ぎ、働き過ぎ、気にし過ぎ、などは健康の面で良くないと言えそうです。「過ぎたる」の判断は、人それぞれで、難しいところですが、時々、「過ぎたるものはないか？」と自身の生活を見つめ直すようにするといいいのではないのでしょうか。

吉田兼好は徒然草のなかで、「夏果てて、秋の来るにはあらず。・・・中略・・・生老病死の移り来る事、また、これに過ぎたり。四季は、なほ、定まれる序（ついで、順番のこと）あり。死期は序を待たず。死は、前よりしも来らず、かねて後に迫り。人皆死ある事を知りて、待つことしかも急ならざるに、覚えずして来る。」と述べています。定期的に健康診断を受けて、健康をチェックしましょう。



ゴミの分別について

大学祭で、実行委員の人達が一生懸命ゴミの分別をしているのを見かけたことがある人も多くいると思います。大変そうですね。一人ひとりが分別をしていたら、そんな作業は必要なくなるのです。日頃から意識して、ゴミを処分するよう心掛けましょう。

ここでは、本学内でのゴミの分別についてお知らせします。

なお、居住地では、その地域の分別方法に従ってください。



<不燃ごみ>

ビニール・プラスチック・ボールペン・クリップ・クレヨン・シャープペン・画鋏・ガラス・陶磁器・乾電池・スプレー缶・一斗缶・蛍光管・電球・金属製品・ゴム製品

※ガラス(新聞紙等で包む), 乾電池(乾電池だけの袋にする), スプレー缶(ガスを完全に抜く), 一斗缶の中身は抜きビニール袋に入れる。

<ペットボトル>

ペットボトル。中身を捨てること、ラベル・キャップは不燃ごみ

<缶>

缶(アルミ缶・スチール缶)

<可燃ごみ>

資源ゴミ以外の紙くず・感熱紙・ティッシュペーパー・生ゴミ・布製品・衣類皮製品・木片

飲酒について **お酒は20歳を過ぎてから!**

大学生活では、歓迎会、打ち上げ、追いコンなどお酒と関わる機会が多くあり、先生、先輩、仲間の交流の場ともなっています。しかし、一方では無謀な飲酒による死亡事故も発生しています。楽しい大学生活を送るためにも、次のことに注意して、節度ある飲酒を心掛けてください。

- ◆ 未成年者の飲酒は法律で禁止されています。
一緒にいる人は、未成年者に飲ませないように注意してください。
- ◆ 後輩や仲間に対する、会合への参加及び飲酒の強要はしてはいけません。
また、断る意志をはっきり示すことも大切です。
- ◆ 空腹時、薬を服用する時、体調の悪い時等には飲まないほうがよいでしょう。
- ◆ イッキ飲み、大量飲酒など無謀な飲み方は急性アルコール中毒への近道です!
絶対にやめましょう。
- ◆ 酔って周囲に迷惑をかける行為(悪ふざけ、暴言・暴力、セクハラ、その他器物損壊など)は、慎んでください。
- ◆ たとえ少量の飲酒であっても、飲酒運転は絶対にいけません。
- ◆ 学内での飲酒は、特に許可された場合以外、全面禁止です。



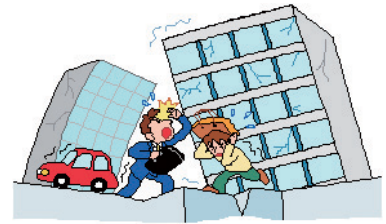
※お酒にかかわる法律・「未成年者飲酒禁止法」、「酒に酔って公衆に迷惑をかける行為の防止等に関する法律」等

■万が一、急性アルコール中毒が起きてしまったら・・・■

友達が飲み過ぎて倒れてしまったら、すぐに救急車を呼んでください。また救急車が到着するまで一人きりにしないで、誰かが必ず付き添ってください。

緊急地震速報について (地震に備えて-Part4)

「緊急地震速報」という言葉を聞いたことがありますか？
震源近くの地震波（P波，初期微動）から想定される揺れの強さ等を計算し，震度5弱以上を予測した場合に，気象庁から「緊急地報（警報）」が発表されます。



ただし，この速報は情報が発表されてから強い揺れが発生するまでの時間が，十数秒から数十秒ととても短く，震源に近いところでは速報が間に合わないことがあります。また，予測震度に誤差が生じるなどの限界もあります。

このような特性や限界を十分に理解したうえで，緊急地震速報を活用していきましょう。

<速報の主な入手方法>

テレビ・ラジオ…「ピロン ポローン ピロン ポローン」という報知音とともに放送されます。ただし電源が切っている状態では受信できません。

携帯電話…NTTドコモ，au，ソフトバンクの三社（H22.8時点）が対応しているそうです。

なお，受信可能な機種や受信設定等詳細は各社違いますので，一度確認しておくよいでしょう。

防災行政無線，施設の館内放送等

<緊急地震速報を見聞きした時の行動>

速報から強い揺れが襲来するまではごく短い時間です。その間に避難することは極めて困難なことです。『まわりの人にも声をかけながら，あわてず，まず身の安全を確保する』ことを第一に考えてください。



● 場面による行動例

- 家庭で
頭を保護し，丈夫な机の下などに避難する。あわてて外へ飛び出さない。
- 自動車運転中
ハザードランプを点灯して周りの車に注意を促しながら，ゆっくりとスピードを落とす。
- 屋外で
ブロック塀の倒壊や看板・割れたガラスの落下に注意する。
- 大学内や人が大勢いる施設で
大学教職員や施設係員の指示に従い，あわてて出口に走り出さない。
- エレベーターで
最寄りの階に停止させてすぐに降りる。
- 鉄道・バスでは
つり革，手すりにしっかりとつかまる。

参照：リーフレット「緊急地震速報～まわりの人に声をかけながらあわてず，まず身の安全を！！～」（気象庁）

- ▶ その時の状況により具体的な行動は違いますが，基本的なことは頭に入れておくとうよいでしょう。
- ▶ 普段から，部屋の中の家具が倒れないように固定するなど，地震に備えておきましょう。
- ▶ 緊急地震速報の詳細については，気象庁のホームページを参照してください。
気象庁ホームページ <http://www.jma.go.jp/>

行事予定

● ● ● 平成23年度前期

	行事等	備考	
学部	4月1日(金)～4月10日(日)	春期休業	(全学共通) 4月24日(日) 「履修登録」締切 ※変更期間:4月25日(月)～4月28日(木) ※大学夏季一斉休業 8月11日(木),12日(金),15日(月)
	4月7日(木)	入学式	
	4月7日(木)～4月8日(金)	新入生オリエンテーション	
	4月8日(金)～4月9日(土)	新入生合宿研修	
	4月11日(月)	授業開始	
	6月14日(火)及び15日(水)	3年次生附属校園観察実習(附幼・小・中)	
	8月1日(月)～8月5日(金)	前期試験期間	
	8月6日(土)～9月30日(金)	夏期休業	
	8月23日(火)～8月30日(火)	集中講義	
	8月29日(月)～9月9日(金)	2年次生保育所実習Ⅰ(鳴門市内保育所等)	
	8月29日(月)～9月9日(金)	4年次生保育所実習Ⅱ(鳴門市内保育所等)	
	9月5日(月)～9月30日(金)	3年次生主免教育実習(附幼・小・中)	
	9月5日(月)～9月30日(金)	大学院長期履修生主免教育実習(松茂,北島,藍住町内小中)	
	9月5日(月)～9月16日(金)	4年次生教員インターンシップ(附幼)	
	9月1日(木)～9月30日(金)のうち2週間	4年次生教員インターンシップ(鳴門市内小中)	
9月8日(木)	ふれあい実習(観察実習)(学内)		
9月12日(月)	ふれあい実習(観察実習)(附幼・小・中)		
9月13日(火),14日(水)のうち1日	ふれあい実習(交流実習)(鳴門市内幼稚園)		
9月26日(月)～9月30日(金)のうち1日	ふれあい実習(交流実習)(附特別支援)		
9月26日(月)～9月27日(火)	2年次生合宿研修		
大学院	4月1日(金)～4月10日(日)	春期休業	※四国インカレ 7月初旬
	4月7日(木)	入学式	
	4月7日(木)～4月8日(金)	新入生オリエンテーション	
	4月11日(月)	授業開始	※大学院入試 8月
	8月1日(月)～9月11日(日)	夏期休業	
教職大学院	9月12日(月)～9月30日(金)	集中講義	
	4月1日(金)～4月10日(日)	春期休業	
	4月7日(木)	入学式	
	4月7日(木)～4月8日(金)	新入生オリエンテーション	
	4月11日(月)	授業開始	
	8月1日(月)～9月11日(日)	夏期休業	

就職支援

※詳細は就職支援室で確認すること。

- 教員採用試験対策説明会(学内).....4月13日(水)
- 教員採用試験説明会(各都道府県).....4月～5月実施予定
- 教員採用模擬試験.....4月23日(土)
- 教採対策ガイダンス(実践編).....4月13日(水)～6月23日(木)※毎週水・木
- 教採対策ガイダンス(直前編).....6月29日(水),30日(木)
- 教採実技ガイダンス(個人).....5月21日(土)
- 教採実技ガイダンス(集団).....6月18日(土)
- 教採実技ガイダンス(音楽).....6月上旬
- 教採実技ガイダンス(美術).....7月上旬
- 教採実技ガイダンス(体育).....7月上旬
- 教採二次対策ガイダンス.....7月下旬～9月上旬

<学生会・院学生会主催行事予定>

- ★学生会★...部・サークル紹介(4/7(木))ほか
- ★院学生会★...ソフトバレーボール大会,国際交流パーティーほか

編集後記

春は,新たな旅立ちと出会いの季節であります。本号は,本学の研究教育の発展に尽力され本年度をもって退職される先生方,また日々学業・スポーツ等に励み卒業・修了を迎えた学生たちの寄稿を中心に掲載しました。国立教員養成大学・学部教員就職率全国一位を達成し得たことは,本年で創立 30 周年を迎える本学の歴史においても輝かしいことであり,在学生はもちろん,新入生の皆さんにとって励みとなることでしょう。(M・O)

編集：鳴門教育大学学生支援委員会 発行：鳴門教育大学学生課
発行地：鳴門市鳴門町高島字中島 748 番地

☎ 088 (687) 6118 <http://www.naruto-u.ac.jp/>

ALBUM

Naruto University of Education

